

令和4年6月22日

輪之内町教育委員会

教育長 長屋 英人 様

外部評価員 田中 耕

令和3年度評価「輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況報告書」に対する外部評価について（報告）

令和4年5月付けで貴職からご報告のありました「令和2年度評価 輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況報告」（以下「第一次評価報告書」という）及び「令和3年度学校評価に関する考察」（以下「考察資料」という）によるほか、すでに公表されています「令和3年度輪之内町教育要覧 学校要覧」、インターネット情報などを含めて「地域教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項に基づき、外部の視点から評価を行いましたので、その所見を取りまとめ下記のとおりご報告します。

記

1. はじめに

「第一次評価報告書」の第1章では、「点検評価結果の概要」として評定方法及び点検評価結果全体の概要について、第2章では、「点検評価シート」を用いて教育委員会の活動状況並びに事務事業である学校教育及び社会教育の執行状況について自己評価が行なわれています。これらの中で、教育委員会の活動状況については「教育委員会会議等の実施状況」、「調査活動の状況等」の2項目に分けて過去3年間の自己評価に合わせて「活動実績」及び「成果と課題」が示されています。また、学校教育については13領域、社会教育については7領域、計20領域に分けて、各領域の「重点目標」及び「成果と課題」の自己評価が示されています。

したがって、今回の外部評価に当たっても、第一次評価報告書の記載に従い、「点検評価結果全体の概要」、次いで「各事務事業ごとの点検評価シート」の順に外部評価員としての評価と所見を以下に述べることにします。

2. 点検評価結果全体の概要について

「第一次評価報告書」の「第1章点検評価結果の概要」では、内部評価の目的、点検評価方法及び点検評価結果全体の概要が示されています。この中で、「教育委員会の活動状況」の評定は、「①教育委員会会議の状況」及び「②調査活動の状況」ともに「順調に達成している(A)」とされており、貴教育委員会活動が極めて順調に推移していると見ることができます。

さらに、主要な20事業における「事務事業の執行状況」の評定については、「A順調に達

成しているもの」が11/20事業（55%）、「B おおむね順調に達成しているもの」が7/20事業（35%）とされています。また、「－評価不能」であった事業が2/20事業（10%）と報告され、「C 達成見込みであるが順調でないもの」及び「D 順調でないもの」に該当する事業は存在しなかった（0%）とされています。

事業評価というのは、長所や短所あるいは費用対効果などその内容が複雑に絡み合って存在し、単純に平均値やA、B、C等で示せず疑問に思われる面もありますが、詳細な各項目ごとの評価については次節に記述することとして、全体的な状況を概観すると、次のように示されます。

評定割合は半数以上の事業が順調に達成されており、ほぼ満足できる内容であると思われます。本年度はコロナ禍で終始し、教育行政推進に多くの苦難があったことと思われませんが、事務事業が全般的にほぼ順調に推移していることの現われであると考え、貴教育委員会の日頃のご尽力によつて的確に機能していることに敬意を表します。しかし、現状に甘んじることなく、輪之内町の教育水準が学校教育、社会教育ともに、より一層向上するような施策の展開を期待しています。

3. 各事務事業ごとの点検評価シート

（1）教育委員会の活動状況

教育委員会会議及び総合教育会議は輪之内町における教育を審議決定する重要会議であり、順調に開催され審議できたことは評価できます。県や地域の教育行政の動向や各学校の状況などについての報告が行われ、活発な議論がなされているようである。とりわけ首長を交えた「総合教育会議」の定期的な開催は地方行政との連携を図る上でも極めて重要な会議に位置づけられるものと考えられます。国内のマスコミなどで話題になっている課題などについても活発な議論がなされているようで大いに評価できます。事務局及び教育委員の日頃のご尽力に敬意を表します。

「調査活動の実施状況」についてはコロナウイルス感染症拡大防止対策のため、一部は中止されたが、オンラインでの遠隔実施などによる工夫によって無事に開催できており「順調に達成している（A）」と評価されています。前年度は全く開催できなかったものの、今年度には一部中止になった活動が見受けられるものの、ほぼ順調に開催できたことの表れであると思われまふ。次年度以降はすべての活動が順調に開催できることを期待します。課題として述べられているオンライン開催については、効率的な開催方法ではありますが、単なる連絡や報告などではなく、対面開催でないと十分な議論を深めることができない内容の場合もあります。新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みてオンライン開催のみに依存しない、会議目的に即した開催方法とされることを期待します。

（2）事務事業の執行状況について

○「学校教育」

各領域の評価が、小中学校に勤務している教職員による自校評価を集計平均した値に基

づいていることは、町内学校教育の第一線で活躍されている教職員の生きた状況を反映したものであり、妥当性のある貴重なデータになっていると考えます。また、このような自己評価は各教職員が学校教育の各領域について年に 1 回の振り返る機会であり、また、自校の教育の有り方について各自が考える場にもなっており、好感が持てる手法であると評価します。

そのなかで、「A 順調に達成しているもの」11/13 事業（85%）、「B おおむね順調に達成しているもの」2/13 事業（15%）、「C 達成見込みであるが課題があるもの」0/13 事業（0%）、「D 順調でないもの」0/13 事業（0%）となっています。したがって、全体の 85%が順調に達成できており、残りの 15%がおおむね順調に達成していることとなります。「C」、「D」の評定が見られていないのは多くの教員が自己の教育に自信と充実感もって取り組んでおられることの表れであると考えます。従来、評価平均値が低下傾向にあり、学校教育に閉塞感が見られましたが、前年度に比較して本年度は大幅に評価平均値が向上していることは極めて高く評価できます。「A」評定が多くを占めたことも高く評価できます。個々の教職員の皆様方のご努力によって、教育水準の向上や教育環境の充実したことの表れであると考えます。とりわけ、学校教育の要である教科指導が「A」評定になり、教職員の教育満足度が向上したことは極めて喜ばしいことであり、大いに評価すべきであると考えます。教職員の皆様の日頃のご努力の積み重ねであり、敬意を表するとともに、今後も継続できることを期待しています。これまでの、コロナ禍の閉塞感に対する反動から ICT の利用などによって教育環境がやや改善したことによるバイアスによって、評定が好転したとも考えられます。今後も継続して観察していくことが重要であると考えます。

いずれにせよ、評価平均が好転してきたことは大きく評価でき、このような状態を継続維持できることを期待しています。

評価年度	令和 3 年度 (2021)	令和 2 年度 (2020)	令和元年度 (2019)	平成 30 年度 (2018)	平成 29 年度 (2017)
領域	13	13	13	13	13
評価平均	82.7	75.1	76.8	78.4	76.7
評定 A/B 数	11/2	3/10	4/9	4/9	0/16

令和 3 年度は各小中学校の校長先生や教育委員会による考察資料に述べられているように、年度当初からコロナ禍によって通常授業を行なうことが困難で、様々な制約の中での教育活動であったことと推察します。教職員の先生方にも多大な負担がかかり、児童生徒にも十分な教育環境が提供できなかったことはやむを得ないことであると考えます。とりわけ「教科指導」領域においては、コロナ禍のなかでの三密回避によって、十分な教育の提供ができなかったのではないかと危惧します。しかしながら、そのような中でもデジタル教科書やタブレット端末の活用によって工夫した学習が出来たことは、今後の情報化社会を生き抜く面でも、よい導きに繋がったことと考えます。また、生徒自らが進んで計画し、自分の

ペースで主体的に学ぶ姿勢の醸成は何よりも必要であると思います。このような状況に対応するための研修機会としてICT活用フィールド校を設定し研修の場を設けるなど、積極的に教育に取り組まれていることは、今後の学校教育の充実につながるものと期待します。

さらに、すべての小中学校でICT活用が教育に取り入れられ、生徒自身による主体的な学びとすることが出来たこと、また、コロナ禍による様々な制約の中でも、感染症対策に配慮した教育を実現できたことが、満足のいく学校教育の実現に繋がったことがものと考えます。また、第一線の教育に携わっておられる先生方がICTの有効活用など苦心しながら学校教育を進められていることが窺えます。新たな取り組みを教育の中に積極的に取り入れ向上を図っておられる姿勢は非常に好感が持てます。今後の益々のご活躍を期待しています。

また、考察資料の中には、小学校のほぼ全教職員の勤務時間の削減が大幅に達成できたとされています。このことは非常に評価できます。教職員間でICTを効率的・効果的に活用することによって、時間外勤務の縮減に繋がり、社会的にも問題視されている教職員の働き方改革の推進とともに、授業や生徒の指導に専念できる環境づくりにもなることと考えます。

小中学校の校長先生の多くはコロナ禍で苦勞しながらも教育活動を実践できたことを取り上げておられます。教育成果を的確に把握しその成果を次年度にも継続し、課題として残された部分を次年度に向けて取り組むPDCAによって一つ一つ向上させていくことが大切です。日頃から輪之内町における学校教育の第一線でご尽力されている教職員の皆様方に深く敬意を表するとともに、今後も益々のご活躍を祈念します。そのための貴教育委員会の権限に属する事務事業の管理運営は極めて重要であります。輪之内町の学校教育の水準が日々の積み重ねによって大きく向上していくことを期待しています。

○「社会教育」について

令和元年度の自己評価は7領域すべてにおいて「A順調に達成しているもの」となっていました。しかし、令和2年度は、多くの領域(3/7領域)で、令和3年度は「(-)評価不能」を除くすべての領域(5/7領域)で「Bおおむね順調に達成しているもの」であり、コロナ禍のために順調に達成できなかったことは残念であります。しかしながら、新型コロナの感染防止のためには各種取り組みを実施できなかったことはやむを得ないことと考えます。コロナ禍が早期に収束し、令和4年度には社会教育活動が順調に実施できることを期待しています。

4. おわりに

令和3年度も前年度と同様にコロナ禍に翻弄された一年でした。感染防止対策を図るために、思うように教育活動が出来なかった部分が多かったものと思われまます。そのような状況にありながらも、コロナ対策のためのデジタル教科書利用による教科指導の充実、ICT

を活用した新たな教育方法の導入、研修機会の確保、健康安全教育の徹底、感染者の人権に配慮した関係の確保など、多領域にまたがって精力的に進めて来られたことを高く評価します。なかでも、教科指導が「A」評定に好転できたことは極めて貴重な成果であると考えます。今後もこの成果を継続維持されることを期待します。混迷を極めた中であっても、様々な創意・工夫によって貴教育委員会における事務の管理及び事務事業を執行されていることが随所に見受けられ、大変好印象を受けました。日頃のご努力に敬意を表します。

最後に、輪之内町の基本方針である「輪之内町教育大綱」及び「輪之内町 教育の全体構想」を基本とした輪之内町の教育行政の構築及び推進に期待しています。

以上